

講座スケジュール

《第二期 臨床仏教師養成プログラム》
臨床仏教公開講座

第 1 講

10/15水
18:30 ～ 20:00

日本人の死生観
ー臨床仏教入門ー

内 容

日本人は古来より、八百万の神を信じながらも仏教を柔軟に受け入れ、信仰してきました。そうした日本人の宗教的感性と死生観を紐解きながら、仏教が現代の臨床現場において果たす役割を考えます。

講 師

島 蘭 進（上智大学グリーンケア研究所所長）

第 2 講

10/29水
18:30 ～ 20:00

こころを聴く
ー「カフェ・デ・モンク」の活動ー

内 容

東日本大震災。その出来事の前に多くの宗教者は宗教的言語を失ってしまいました。「泥の中から見えて来た真理」とは？傾聴移動喫茶「カフェ・デ・モンク」の活動を通して学んだ事を振り返ります。

講 師

金田諦應（傾聴移動喫茶 Cafe de Monk 主宰）

第 3 講

11/5水
18:30 ～ 20:00

旅のおわりに
ー医療者が語るターミナルケアー

内 容

誰にも必ず訪れる最期の時間。そのとき人は何を想い、何を必要とするのでしょうか。仏教ホスピスで患者さんと向き合う中で伝えられている、患者さんの「いのちのメッセージ」に耳を傾けましょう。

講 師

林 茂一郎（立正佼成会附属佼成病院緩和ケア科部長）

第 4 講

11/19水
18:30 ～ 20:00

若者のこころの奥に潜むもの
ー問題行動とその背景を探るー

内 容

一見「よい子」に見える現代の若者たち。ひきこもる若者から「破壊カルト」に引き寄せられてしまう若者まで、問題行動の根源には何があるのでしょうか。相談の現場から見えてきたものとは。

講 師

楠山泰道（青少年こころの相談室室長）

第 5 講

12/3水
18:30 ～ 20:00

安心して悩める社会を
ー仏教者の自死防止ネットワークー

内 容

日本の自死者数は高止まりを続けています。人びとはなぜ追い詰められてしまうのか、残された家族はどんな思いを抱えているのか、仏教者が実践し伝えるべき「いのち」のあり方を見つめます。

講 師

柳川真理子（自死・自殺に向き合う僧侶の会元代表）

第 6 講

12/17水
18:30 ～ 20:00

現代版・てらこや教育の実践
ーお寺と地域の協働の可能性ー

内 容

不登校やいじめなど教育現場に課題が山積している昨今、宗教施設の「場の力」を活かしながら、地域と家庭さらに異世代を結ぶ教育のあり方が注目されています。三位一体の協働モデルを学びます。

講 師

池田雅之（NPO法人 鎌倉てらこや顧問）

第 7 講

1/7水
18:30 ～ 20:00

生きるってなんだろう？
ー若者の悩みに寄り添う仏教ー

内 容

自殺サイトに掲示板…… インターネット上には若者の辛い気持ちがあふれています。そうした声に、SNS等を活用しながら寄り添う仏教者がいます。孤立しがちな現代、仏教者が果たすべき役割とは。

講 師

根本紹徹（いのちに向き合う宗教者の会代表）

第 8 講

1/21水
18:30 ～ 20:00

「宗教なき時代」に
ー過疎化・孤立化に向き合うー

内 容

東日本大震災以降、これまでの経済至上主義から、それとは違う「もうひとつの価値観」が見直されてきました。地域に生き、人びとと手を携えて活動する仏教者のもとに、新たな縁が生まれ始めています。

講 師

袴田俊英（心といのちを考える会会長）

第 9 講

2/4水
18:30 ～ 20:00

仏教チャプレンの役割
ー生老病死の現場に関わる仏教者ー

内 容

海外では、病院や老人ホーム、刑務所などでスピリチュアルケアにあたる「チャプレン」と呼ばれる宗教者の存在があります。宗教アレルギーの強い日本において、今、求められる仏教者のあり方とその信念とは。

講 師

千石真理（心身めざめ内観センター主宰）

第 10 講

2/18水
18:30 ～ 20:00

現代社会における臨床仏教師の使命

内 容

精神的空洞化社会と言われる現代。なぜ臨床仏教師が必要とされるのでしょうか。これまでの講座を総括しながら、臨床仏教の意味、そして臨床仏教師に求められている役割とその実践について考えます。

講 師

神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

私たちが生きる社会 私たちが抱く想い
生・老・病・死の「いま」を知る 「いま」を考える
ーここに寄り添うために



リンドウの花言葉
「苦しみに寄り添う」